

実施学科課程表(2017~2023入学生)

専門基礎科目(経済学科・経営システム学科・地域システム学科)

(令和6年度)

学科目	ページ	授業科目	新授業科目	開講年	実施時期	必修・選択必修	レベル	受講可能年次	担当者	教員免許該当科目	備考
専門基礎科目	1	経済学入門	サステナビリティのための経済学入門	6	前	◎	基礎	1年以上	石井・市原・宇野・小笠原・木村・柴田・高見・テイ・林・海・村山・(非)高山・(非)久保・中本	公民	
	2	初級ミクロ経済学	ミクロ経済学	6	後	○いずれか1科目必修			村山・小野	公民	
	3	初級政治経済学	初級政治経済学	6	前				海・田村		
	4	経営学入門	経営学入門	6	前	○いずれか3科目必修			渡邊・河野・本谷・仲本・加納・松谷・于・松隈	商業	
	5	会計学入門	会計学入門	6	前				山根・越智	商業	
	6	法学入門	法学入門	6	後				青野・秋山	公民	
	7	地域学入門	地域学入門	6	後				包・高島・山浦・甲斐・宮町・城戸・未定(大呂後任)	公民	
	8	イノベーション・マネジメント入門	※なし	6	前				渡邊・河野・松隈・豊島・仲本・中本		

※◎は必修、○は選択必修である。

専門基礎科目(社会イノベーション学科)

学科目	ページ	授業科目	新授業科目	開講年	実施時期	必修・選択必修	レベル	受講可能年次	担当者	教員免許該当科目	備考
専門基礎科目	1	経済学入門	サステナビリティのための経済学入門	6	前	◎	基礎	1年以上	石井・市原・宇野・小笠原・木村・柴田・高見・テイ・林・海・村山・(非)高山・(非)久保・中本	公民	
	2	初級ミクロ経済学	ミクロ経済学	6	後	○いずれか1科目必修			村山・小野	公民	
	3	初級政治経済学	初級政治経済学	6	前				海・田村		
	4	経営学入門	経営学入門	6	前	○いずれか1科目必修			渡邊・河野・本谷・仲本・加納・松谷・于・松隈	商業	
	5	会計学入門	会計学入門	6	前				山根・越智	商業	
	6	法学入門	法学入門	6	後				青野・秋山	公民	
	7	地域学入門	地域学入門	6	後				包・高島・山浦・甲斐・宮町・城戸・未定(大呂後任)	公民	
	8	イノベーション・マネジメント入門	※なし	6	前	◎			渡邊・河野・松隈・豊島・仲本・中本		

※◎は必修、○は選択必修である。

学部共通科目

学科目	ページ	授業科目	新授業科目	開講年	実施時期	必修・選択必修	レベル	受講可能年次	担当者	教員免許該当科目	備考
外国書講読	9	外国書講読	※なし	6	前	○いずれか1科目必修	中級	2年以上	木村		
ビジネス英語	10	ビジネス英語A	ビジネス英語	6	後		基礎	1年以上	ホワイト・ミラー		
		ビジネス英語B	※なし	不開講	基礎		2年以上				
特別講義	11	海外フィールドワーク	※なし	7*	前		応用	3年以上	木村		
		国際学生フォーラム	国際学生フォーラム	6*	前		中級	2年以上	小笠原・木村		
		国際ボランティア・ワークショップ	※なし	不開講	応用		3年以上				
		IBPプレゼンテーションセミナー	IBPプレゼンテーションセミナー	6	後		応用	3年以上	市原・加納・柴田・(非)安田	IBP3年生以上	
		後日 フィールドワーク入門	※なし	6	後		基礎	1年以上	(非)		
		農山漁村再生論	※なし	不開講	基礎		1年以上				
アドバンスセミナー		アドバンスセミナー	※なし	6	前・後		応用	3年以上	各担当教員		
インターンシップ	14	インターンシップ	インターンシップA・B	6	前・集中		応用	3年以上	インターンシップ実施委員会		3年生対象・集中
社会人講義等	15-21	四極会寄附講義 会社研究	※なし	6	前		中級	2年以上	社会人講義等運営委員会		
		大分銀行寄附講義 地域と経済	※なし	6	後		中級	2年以上			
		野村證券寄附講義 資本市場の役割と証券投資	※なし	6	後		中級	2年以上			
		芙蓉リースグループ寄附講義 CSV経営実践論	※新規開設科目	6	後		中級	2年以上			
		大分県弁護士会連携講義 法律の基礎と実務	法律の基礎と実務	6	後		基礎	1年以上		1・2年生対象	
		連合大分寄附講義 働くということと労働組合	※なし	6	前		基礎	1年以上			
		南九州税理士会寄附講義 租税の基礎と税理士の役割	※なし	6	後		基礎	1年以上			

※○は選択必修である。

※IBPプレゼンテーションセミナーの単位は、実施期間により2単位又は4単位となる。

※インターンシップの単位は、実施期間により1単位又は2単位となる。

※学部共通科目は、どの学科にも所属しない専門教育科目の「選択」となる。

卒論・演習等

学科目	ページ	授業科目	新授業科目	開講年	実施時期	必修・選択必修	レベル	受講可能年次	担当者	教員免許該当科目	備考
卒論・演習等	後日	中級セミナー I		6	前	◎	中級	2年以上	各担当教員		
	後日	中級セミナー II・サービス現場のフィールドワーク		6	後	◎					
	後日	演習 I	演習 I	6	前	◎	応用	3年以上			
	後日	演習 II	演習 II	6	後	◎					
	後日	演習 III	演習 III	6	前	◎					
	後日	演習 IV	演習 IV	6	後	◎					
	後日	卒業論文	卒業論文・研究	6	通	◎					

※◎は必修である。

※演習の参加資格については、各自入学年度「履修の手引」を参照のこと。

※「レベル」について：1年次生は中級・応用の科目は履修できず、1・2年次生は応用の科目を履修できない。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
	サステナビリティのための経済学入門(Introduction to Economics and Sustainability) (旧科目名:経済学入門)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	1, 2, 3, 4	経済学部	前期	木1	氏名 石井 まこと 他経済メジャーの教員 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698										
授業の概要	経済学部のすべての学生を対象として、高校「政治・経済」で学修した内容から、大学専門教育への橋渡しを目標とし、経済学部における学修の基礎となる経済学の考え方、及び経済理論の政策への応用などについて学びます。その上で、サステナビリティ(持続可能性)と経済学の関係について考えるテーマを毎回提示し、経済学的思考の基礎力を身につけます。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	経済学の考え方を説明できる。															
目標2	経済理論の政策への応用例について説明できる。															
目標3	資本主義の特徴、国民所得と景気、市場の役割、金融・財政のしくみの基礎事項を説明できる。															
目標4	労働問題、社会保障、日本・世界経済の歩み、国際経済について基礎事項を説明できる。															
目標5	サステナビリティと経済学の関係について説明できる。															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	イントロダクション															
2	資本主義の一般的傾向															
3	市場経済のしくみ															
4	国民所得と景気															
5	財政のしくみとはたらき															
6	金融のしくみとはたらき															
7	中間の振り返りと今後の発展(コースでの学び)															
8	世界経済の歩み															
9	日本経済の歩み															
10	労働問題・社会保障制度のしくみ															
11	公害と環境保全															
12	国際貿易と世界経済															
13	地域主義の動き															
14	発展途上国と国際問題															
15	まとめ(サステナビリティと社会科学)															
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業前の課題や講義時のレポート・試験を実施し、内容についての理解を深めてもらいます。				工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	高校「政治・経済」の教科書、またはそれと同等の内容の資料に基づく準備学修と予習課題の提出(20h)。														
	事後学修	講義内容の振り返り(14h)														
教科書	教科書は使用しません。随時資料を配付します。															
参考書	高校「政治・経済」の教科書															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	予習課題	40%														
	授業回ごとのテストまたはレポート	60%														
注意事項	講義中の私語・携帯電話は厳禁です。 経済学入門の単位を取得済の場合は、履修できません。															
備考	内容については変更の可能性があります。また、受講生を2クラスに分けて同時刻に開講するため、クラスによって授業の内容の順序が若干異なることがあります。															
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
		ミクロ経済学(Microeconomics) (旧科目名:初級ミクロ経済学)					専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1,2,3,4	経済学部	後期	木3 金1	氏名 村山 悠・小野 宏 E-mail 内線												
授業の概要	ミクロ経済学はマクロ経済学とともに理論経済学の基礎理論となるものであり、私たちの日常生活に深くかかわった経済問題を考える際の判断材料を提供してくれる。この講義では、ミクロ経済学の基本的なテーマである消費者や企業がどのように行動し、また市場でどのように価格や取引量が決定されるかについて理解することをねらいとする。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 市場という概念について具体的なイメージを形成できる。																		
目標2 需要と供給の理論を理解し、価格形成について説明できる。																		
目標3 市場の役割と市場の問題点を説明できる。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ミクロ経済学とは																		
2 需要と供給(1) 需要・供給曲線																		
3 需要と供給(2) 価格変動と需要・供給曲線のシフト																		
4 需要と供給(3) 地価・消費税への応用																		
5 需要曲線と消費者行動(1) 需要曲線の構造																		
6 需要曲線と消費者行動(2) 市場需要と消費者余剰																		
7 費用の構造と供給行動(1) 供給曲線と費用曲線																		
8 費用の構造と供給行動(2) 利潤最大化行動																		
9 市場取引と資源配分(1) 米価問題																		
10 市場取引と資源配分(2) 間接税の影響																		
11 市場取引と資源配分(3) 自由貿易の利益																		
12 企業の参入・退出行動(1) 完全競争市場の長期均衡																		
13 企業の参入・退出行動(2) 参入・退出による調整																		
14 無差別曲線と効用																		
15 まとめ																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業の最後に、まとめ等を記入してもらう機会を設けるようにする。										工夫	その他					
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	教科書・配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)																
	事後学修	教科書・配付資料や参考文献等を用いて復習する(15h)																
教科書	『ミクロ経済学 第3版』 伊藤元重著 日本評論社																	
参考書	講義中に適時紹介する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	定期試験	70%																
	小テスト・レポート等	30%																
注意事項	講義中の私語は禁止する。 詳細な注意事項は1回目の講義で説明する。																	
備考	初級ミクロ経済学の単位を修得済の学生の履修はできません。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
		初級政治経済学(Introduction to the Political Economy)				専門基礎科目 専門基礎科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修	2	1	経	前期	木3	氏名 海 大汎・田村 哲也 E-mail dbhae@oita-u.ac.jp / ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7681 / 7706										
授業の概要	<p>・テーマ：市場経済と資本主義</p> <p>・概要：本講義は、政治経済学の基礎知識を学修するものとして、市場経済と資本主義の違いおよび資本主義社会の特殊歴史性について理解を深めることを目的とする。</p>															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 資本主義と市場経済の違いを説明できる。																
目標2 資本主義社会の特殊歴史性を理解できる。																
目標3 「政治経済学」及び「政治経済学」の学修に必要な基礎知識を身につける。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 [前半クラス]オリエンテーション																
2 資本主義の歴史(1)資本主義以前の経済システム																
3 資本主義の歴史(2)資本主義の成立																
4 資本主義の歴史(3)産業革命からフォーディズム																
5 資本主義について考えた思想家たち																
6 さまざまな国の資本主義																
7 グローバル資本主義																
8 資本主義の現在と未来																
9 [後半クラス]交換とは何か																
10 物々交換と商品交換																
11 共同体と市場																
12 モノと商品																
13 価値と価格																
14 労働力商品																
15 市場経済と資本主義																
ラック	A:知識の定着・確認	・小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。				工夫	その他の									
ニテ	B:意見の表現・交換															
ンイ	C:応用志向															
グ	D:知識の活用・創造															
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	[15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。														
	事後学修	[20h] 講義の内容を参考に自分の思考や問題意識を深める。														
教科書	・講義資料を適宜配布します。															
参考書	・永谷清(著)『市場経済という妖怪 - 『資本論』の挑戦と現代』(2013)社会評論社。・伊藤誠(著)『入門 資本主義経済』(2018)平凡社。・ユルゲン・コッカ(山井敏章訳)『資本主義の歴史 起源・拡大・現在』(2018)人文書院。・中谷武ほか『資本主義がわかる経済学』(2019)大月書店															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	毎回の事後課題	60%														
	中間レポート	40%														
注意事項	・無断欠席(連絡・説明・証明なしの欠席)は減点対象となります。															
備考																
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
K021A203		経営学入門(Introduction to Management)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択必修	2	1	経済学部	前期	火3	氏名 加納 拓和・松隈 久昭・本谷 るり・松谷 葉子 E-mail hkano@oita-u.ac.jp (加納)・himatsu@oita-u.ac.jp (松隈)・motoya@oita-u.ac.jp (本													
授業の概要	初めて経営学を学ぶ学生諸君に対して、専門基礎としての講義を意識して行います。また、専門経営学各論への橋渡しとしての役割を考慮して、幅広い講義内容を提供します。経営学の基礎知識を理解できるようにします。																		
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
目標1	経営学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。																		
目標2	経営学の基礎知識を理解し、説明できる。																		
目標3	新聞・雑誌等の経営学用語を理解し、説明できる。																		
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1	第A教室・第B教室 インTRODククション																		
2	A教室 企業組織の成立と維持(1):組織の捉え方(担当:本谷) B教室 戦略経営論(1):競争戦略(担当:加納)																		
3	A教室 企業組織の成立と維持(2):組織の構造(担当:本谷) B教室 戦略経営論(2):イノベーション(担当:加納)																		
4	A教室 企業組織の成立と維持(3):組織と人のかかわり(担当:本谷) B教室 戦略経営論(3):グローバル戦略(担当:加納)																		
5	A教室 戦略経営論(1):競争戦略(担当:加納) B教室 企業組織の成立と維持(1):組織の捉え方(担当:本谷)																		
6	A教室 戦略経営論(2):イノベーション(担当:加納) B教室 企業組織の成立と維持(2):組織の構造(担当:本谷)																		
7	A教室 戦略経営論(3):グローバル戦略(担当:加納) B教室 企業組織の成立と維持(3):組織と人のかかわり(担当:本谷)																		
8	第A教室・第B教室 中間試験																		
9	A教室 マーケティング(1):4Pの説明(担当:松隈) B教室 コンテンツ産業と事業創造(1):コンテンツ産業(担当:松谷)																		
10	A教室 マーケティング(2):消費者行動(担当:松隈) B教室 コンテンツ産業と事業創造(2):ビジネスモデル(担当:松谷)																		
11	A教室 マーケティング(3):デジタルマーケティング(担当:松隈) B教室 コンテンツ産業と事業創造(3):ターゲットと価値(担当:松谷)																		
12	A教室 コンテンツ産業と事業創造(1):コンテンツ産業(担当:松谷) B教室 マーケティング(1):4Pの説明(担当:松隈)																		
13	A教室 コンテンツ産業と事業創造(2):ビジネスモデル(担当:松谷) B教室 マーケティング(2):消費者行動(担当:松隈)																		
14	A教室 コンテンツ産業と事業創造(3):ターゲットと価値(担当:松谷) B教室 マーケティング(3):デジタルマーケティング(担当:松隈)																		
15	第A教室・第B教室 期末試験																		
ラ ア ク ニ テ ィ ン グ グ レ ー ド	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業毎に学生からの質問を受ける機会を設け、その内容についてフィードバックすることで、他の学生の意見を聞く機会を与える。特に実生活に活用可能な意見を多くとり上げ、受講生の応用力を高める。										工 夫 そ の 他 の	講義資料や参考文献をMoodleに公開し、学習を促進する。尚、資料をmoodleではなく、印刷したものを配布することもあります。詳細は、各担当教員の初回講義にて説明があります。						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配付資料や参考文献等の情報が必要に応じて予習する(18h)。																	
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した経済・経営関連知識を実際の生活場面と関連させて捉える(14h)。																	
教科書	適宜講義資料を配布します。																		
参考書	講義の進捗度に応じて適宜紹介します。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	中間試験 前半担当教員2名各25%	50%																	
	学期末定期試験 後半担当教員2名各25%	50%																	
原則として、毎回出席をとります。三分の二以上出席しなければ試験の受験資格を失うことになります。尚、出席の取り方については担当教員によって異なります。(各担当教員の初回にて解説します)																			
注意事項	私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めない。																		
備考																			
リンク	URL																		

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K021A204	会計学入門(Introduction to Accounting)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1,2,3,4	経	前期	火2	氏名 越智 学・山根 陽一 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp (越智)・y-yamane@oita-u.ac.jp (山根) 内線 7700 (越)						
授業の概要	会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。そのため、基本的な会計用語の意味や会計情報の使い方は、2年次以降に所属する学科を問わず、経済学部/学生全員が理解しておく必要があります。また、経済社会には会計を専門とする職業(税理士や公認会計士など)があります。それらの職業を目指す人にとっては、体系的な知識を基礎から積み上げていくことが重要です。この授業では、会計学の体系とその基礎知識を学ぶことにより、今後の専門知識の学び方や自らのキャリアを効果的にデザインできるようになることをねらいとしています。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	会計の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。											
目標2	小規模企業の簿記一巡の手続き(日商簿記検定初級レベル)を行うことができる。											
目標3	企業内部の経営者や企業外部の利害関係者の立場から、会計情報を使った初歩的な分析を行うことができる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	イントロダクション:簿記・会計とは											
2	簿記・会計の目的(1):会計期間,貸借対照表											
3	簿記・会計の目的(2):損益計算書											
4	会計報告書の作り方(1):取引と勘定記入											
5	会計報告書の作り方(2):仕訳と転記											
6	会計報告書の作り方(3):商品売上の記帳(1)											
7	会計報告書の作り方(4):商品売上の記帳(2)											
8	会計報告書の作り方(5):現金・預金,貸付金・借入金の記帳											
9	会計報告書の作り方(6):その他の資産・負債の記帳,仕訳帳と総勘定元帳											
10	会計報告書の作り方(7):試算表の作成と月次の集計											
11	会計報告書の作り方(8):決算と貸借対照表・損益計算書の作成											
12	会計情報の使い方(1):財務諸表の構造と入手方法											
13	会計情報の使い方(2):企業外部の利害関係者による財務諸表分析											
14	会計情報の使い方(3):企業内部の経営者による経営状況の分析											
15	簿記・会計と職業(公認会計士の先生を招いた講演会を予定)											
ラ ア:知識の定着・確認 イ:意見の表現・交換 エ:応用志向 オ:知識の活用・創造	講義中の穴埋め資料,授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む),授業後の復習課題(授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む)					工 夫 そ の 他 の	公認会計士等の実務家を講師として招聘し,講義内講演会を実施する予定である。実際の業務に関する講演を聞くことにより,会計専門職に関する知識を習得するとともに,今後の学習意欲を高める。					
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する(7h)。										
	事後学修	復習課題を解く(13h)。期末試験に向けた学習を行う(15h)。										
教科書	桑原知之(2022)『日商簿記3級とあるテキスト(第3版)』ネットスクール出版。 (後期の「初級簿記」の教科書としても使用します。)											
参考書	桑原知之(2022)『サクッとわかる日商3級商業簿記テキスト(第3版)』ネットスクール出版。 滝澤ななみ(2024)『みんなが欲しかった!簿記の教科書 日商3級 商業簿記(第12版)』ネットスクール出版。 TAC株式会社(2023)『究極の仕訳集 日商簿記3級(第6版)』TAC出版。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	提出課題	25%										
	期末試験	75%										
注意事項	第2回目以降は毎回,電卓を持参すること。情報基盤センターの学習支援システム「Moodle」を使って演習問題の解答・解説などを配布するので,User IDとPasswordを確認しておくこと(Webメール等と同じものです)。											
備考	後期の「初級簿記」とは連動するため,併せて履修することが望ましい。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K021A205	法学入門(Introduction to Juris prudence)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択必修	2	1	経	後期	木1	氏名 青野 篤・秋山智恵子 E-mail aaono@oita-u.ac.jp・akiyama-chieko@oita-u.ac.jp 内線 7726・7704									
授業の概要	法学関係の科目を学ぶための導入として、法学への興味と関心を引き出すとともに、公法・私法それぞれの分野の基礎的な事項について学ぶことをねらいとします。また国際法分野についても触れる予定です。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	個別法を学ぶにあたって必要な法学の基礎的知識を習得する。														
目標2															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	法の基礎 1 (社会生活における法の役割・法と道徳・法の種類等)														
2	法の基礎 2 (法と裁判・法の解釈等)														
3	憲法の基礎 (人権編)														
4	憲法の基礎 (統治編)														
5	労働法の基礎														
6	国際法の基礎														
7	刑事法の基礎														
8	裁判員制度														
9	私法の基礎														
10	民法の基礎 1														
11	民法の基礎 2														
12	民法の基礎 3														
13	民法の基礎 4														
14	商法の基礎														
15	民事訴訟法の基礎														
ラーニング	A:知識の定着・確認	裁判例や具体的事件などを取り上げながら、理論的知識の定着を図ります。					工夫	その他の							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備	裁判や法に関する新聞記事やニュースを見聞きする。(15h)													
	事後	配布資料・教科書(六法)を用いて、復習する。(15h)													
教科書	『法学六法'25』(信山社)(2024年9月末頃発売予定) 受講者は、教科書販売期間中に購入して下さい。														
参考書	小川富之・下田大介編著『法学 人の一生と法律とのかかわり』(八千代出版、2018年)														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末テスト	100%													
注意事項	他人の迷惑となる行為(特に私語)を禁止します。														
備考	両担当教員が上記の内容を分担して講義します。したがって、クラスにより上記の授業内容の順番は異なります。令和6年度(2024年度)入学生で、1年次後期から「地域経営・法コース」に所属する人は、コース必修科目となります。														
リンク	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K021A206		地域学入門(Introduction to Regional Studies)				専門基礎科目 専門基礎科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修	2	1	経	後期	火3	氏名 宮町 良広・甲斐 智大・城戸 照子・高島 拓哉・包 聯群・美谷 薫・山浦 陽一 E-mail ymiya@oita-u.ac.jp (宮町), tkido@oita-u.ac.jp (城戸), tataka@oita-u.ac.jp (高										
授業の概要	経済・社会を学習・研究する際、「地域」という切り口はきわめて有効なもの1つである。本授業では、経済学部生が「地域」に関わる学習・研究を進める際に、基本として修得すべき知識や考え方、および学習方法について教授する。地域学に対する興味や関心をはぐくみ、「地域学はおもしろいな。自分もやってみよう」と受講生が思うようになることを目的とする。 各担当教員がリレー方式で講義を担当し、7人で合計15回の授業を行う。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 地域の経済・社会・文化をとらえるための基本的考え方を理解し、説明できる。																
目標2 地域学のための基本的な手法やスキルを身につけ、レポート等で文章表現できる。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 地域学は地域への好奇心から始まる(宮町担当)																
2 地域学と地域活性化(宮町担当)																
3 社会調査の方法(甲斐担当)																
4 多様な働き方と地域(1)(甲斐担当)																
5 多様な働き方と地域(2)(甲斐担当)																
6 地域における多文化共生(1)(城戸担当)																
7 地域における多文化共生(2)(城戸担当)																
8 地域社会における社会と空間(1)(高島担当)																
9 地域社会における社会と空間(2)(高島担当)																
10 地域における多言語景観と多言語サービス(1)(包担当)																
11 地域における多言語景観と多言語サービス(2)(包担当)																
12 題目未定(美谷担当)																
13 題目未定(美谷担当)																
14 地域としての農村(1)(山浦担当)																
15 地域としての農村(2)(山浦担当)																
ラーニング	A:知識の定着・確認	次の項目の中から担当者が授業方式に合わせて実施する。				工夫 その他	関連文献や参考Webサイトの情報提供による調べ学習									
	B:意見の表現・交換	質疑応答と全体共有、授業終了前のミニッツペーパー、アンケート														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	各担当者が指示する(資料読解など、計15h)。														
	事後 学修	各担当者が指示する(レポート作成など、計30h)。														
教科書	各担当者が指示する。各自でのプリントが必要な場合がある。															
参考書	各担当者が指示する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	レポート(3課題)	100%														
注意事項	本授業は定刻開始、定刻終了します。受講生は授業開始前に着席してください。また途中退室を禁じます。															
備考	担当者の順番は変わります。対面(2教室に分割)で実施します。不明な点は気軽に質問してください。各担当者のオフィスアワーを活用してください。															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K021A207	イノベーション・マネジメント入門(Introduction to Innovation Management)					専門基礎科目 専門基礎科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修 社会イノベーション学科は必修	2	1,2,3,4	経済学部	前期	火5	氏名 社会イノベーションコース 担当教員 E-mail 内線										
授業の概要	イノベーションに関連するさまざまな理論をこれから学ぶ学生の皆さんに、専門基礎科目として幅広く講義していきます。イノベーションの担い手としての企業に着目した経営学からのアプローチだけでなく、イノベーションが経済におよぼす影響等についての経済学からのアプローチ、イノベーションが社会におよぼす影響等についての社会学からのアプローチも概観します。これらを通して、イノベーションをさまざまな角度からとらえることができるようになるのが本講義のねらいです。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	イノベーションに関連するさまざまな基礎的な専門用語や概念を理解し、説明できる。															
目標2	イノベーションに関連する具体的な事例について、さまざまな角度から解釈し、説明できる。															
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	イントロダクション															
2	イノベーションの基礎知識 1															
3	イノベーションの基礎知識 2															
4	イノベーションの基礎知識 3															
5	イノベーションとマネジメント 1															
6	イノベーションとマネジメント 2															
7	イノベーションとマネジメント 3															
8	イノベーションの実践事例 1															
9	イノベーションの実践事例 2															
10	イノベーションの実践事例 3															
11	イノベーション・マネジメントの実際 1															
12	イノベーション・マネジメントの実際 2															
13	イノベーション・マネジメントの実際 3															
14	学生によるプレゼン															
15	講評、まとめ															
ラック ニテン イグ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	レポートまたそれらの実施に先立って双方向の質疑応答・議論の時間を確保します。その他、動画やLMS(Moodle)を活用します。	工 夫 そ の 他 の	随時、講義の中で具体的なイノベーションの事例を紹介します。その事例についてさらに文献やインターネット等で深く学んでください。												
時間外 の内容と 時間の 目安	準備 学修	日常的にイノベーションに関する記事やニュースを注意して理解するよう取り組んでください(10h)。またイノベーションの現場や実例を実際に見る機会を作ってください(5h)。														
	事後 学修	講義で紹介したイノベーションに関する理論や講義内容について、書籍等で復習とさらなる学習をしてください(20h)。また現実との関連性を考えてみてください(10h)。														
教科書	適宜プリントを配付します。															
参考書	・一橋大学イノベーション研究センター編(2001)『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社。 ・近能善範・高井文子(2011)『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社。															
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	平常点	50%														
	レポート	50%														
注意事項	毎回出席を取ります。3分の2以上出席しなければレポート提出の資格を失うことになります。フィールドワークを実施する場合があります。その際は学研災への加入が必要となります。															
備考	受講人数や授業の進捗に応じて、授業の内容や順番を変更する場合があります。受講者が少数の場合は演習の形式で実施する場合があります。															
リンク	2017年度以降の入学生のみ受講可能です。状況に応じて、リアルタイムのオンライン配信やオンデマンド授業を導入する場合があります。															
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K022A201		外国書講読(Reading of Foreign Books)				学部共通科目 学部共通科目	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2,3,4	経済	後期	火3	氏名 木村 雄一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689											
<p>現在の先進国の多くは、革命を経て民主的な政治制度が定着し、経済成長と貧困削減を達成し、高い社会厚生を達成している。それらの国々についての一般的な観察によれば、これらの成果は、市場経済の拡大、続いて広い社会階層による権力奪取(革命)と経済成長の結果として民主制度の成立、権力と民衆の利害が一致した社会階層構造による貧困削減的成長・分配政策が施行される結果として達成される。貧困が多く残る地域は、理想的な制度形成が成立しないことが大きな要因である。制度は社会階層間のせめぎ合いや革命の結果として形成される。民衆の政治アクセスはどのように拡大したのか。ヨーロッパと北米に加え、制度形成の文献で比較的手薄なアジアにも大きな分量が割かれている古典 Barrington Moore Jr. を参照し、現実上の重要な事項と論理的な焦点を抽出し、受講者と担当者として議論する。</p>																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 英語文献を精読し、その概要を自分の言葉で説明できるようになること																	
目標2 論点の発見ができること。																	
目標3 論点に基づいてコメント、議論ができること。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 本科目の動機付けについて：国家形成、制度形成は経済成長、貧困削減にどう影響するか																	
2 民主制度形成、非民主的の制度形成はどのように起きるか																	
3 Moore 1973. Ch.4 The Decay of Imperial China and the Origins of the Communist Variant																	
4 Moore 1973. Ch.4 The Decay of Imperial China and the Origins of the Communist Variant																	
5 Moore 1973. Ch.5 Asian Fascism: Japan																	
6 Moore 1973. Ch.5 Asian Fascism: Japan																	
7 Moore 1973. Ch.6 Democracy in Asia: India and the Price of Peaceful Change																	
8 Moore 1973. Ch.6 Democracy in Asia: India and the Price of Peaceful Change																	
9 Moore 1973. Ch.7 The Democratic Route to Modern Society																	
10 Moore 1973. Ch.8 Revolution from Above and Fascism																	
11 Moore 1973. Ch.9 The Peasants and Revolution																	
12 Epilogue Reactionaries and Revolutionaries																	
13 Moore 1973. Ch.1 England and the Contributions of Violence to Gradualism																	
14 Moore 1973. Ch.2 Evolution and Revolution in France																	
15 Moore 1973. Ch.3 The American Civil War: The Last Capitalist Revolution																	
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認		B:意見の表現・交換		C:応用志向		D:知識の活用・創造		毎回のトピックについてディスカッションを行う。議論により理解を深める。また論点を発見し、考えることを学ぶ。		工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備	次回の箇所を読んで把握し、論点、未解決点を抽出してメモしておく。それをもとに時間中にコメントと疑問点の提起などをして議論する。毎回2-3時間を使う必要がある。															
事後	学修	論点を整理して理解に努める。次回に向けてさらに論点の提起を準備する。30分ほど。															
教科書	Barrington Moore Jr. (1973) Social Origins of Dictatorship and Democracy. Penguin University Books.																
参考書	Acemoglu, Johnson, Robinson (2005a) "Atlantic Trade, Institutional Change, and Economic Growth." American Economic Review. Acemoglu and Robinson (2005b) Economic Origins of Democracy and Dictatorship, Cambridge University Press. "The United States Involvement in Regime Change in Latin America." Wikipedia.																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	準備と議論への貢献	100%															
注意事項																	
備考	教材は pdf で配布する。																
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) ビジネス英語(Business English) (旧授業科目名: ビジネス英語A)					区分・【新主題】/(分野) メジャー専門科目 地域研究メジャー科目		授業形式 対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	1年	経済学部	後期	月3	氏名 E-mail 内線														
授業の概要	Through this introductory hybrid/online course, students will be introduced to a variety of business related material covering all four skills; reading, writing, listening and speaking. Student progress will be measured both with a number of TOEIC-style practice sections together with a variety of student-centered output tasks which will be submitted on a weekly basis. This course is open to IBP students who have a TOEIC level of approximately 400-500+, enjoy practical speaking opportunities, and would benefit from having a fuller understanding of English as it is used in the work environment.																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Develop a basic understanding of business vocabulary and etiquette																			
目標2	Improve presentation skills																			
目標3	Practice a variety of practical communicative skills and situations that are common to the workplace																			
目標4	Practice essential test taking strategies for the TOEIC.																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 Orientation, self-intros (Zoom), diagnostic test																				
2 Unit 1 - First meetings and greetings																				
3 Unit 1 - Talking about your job																				
4 Unit 2 - Talking about schedules and arrangements																				
5 Unit 2 - Parts of an email																				
6 Unit 3 - Asking for and giving advice																				
7 Unit 3 - Telephoning																				
8 Midterm Test																				
9 Unit 4 - Asking for and giving opinions; agreeing and disagreeing																				
10 Unit 4 - stages of a meeting																				
11 Unit 5 - Eating out; requests																				
12 Unit 5 - Presentations; basic staging and signposting																				
13 Unit 6 - At a hotel																				
14 Unit 6 - Telephoning 2; answering the telephone																				
15 Final Exam or Final Project																				
ラック ニ ン イ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造				Review exam, group discussion and presentations, LTD, peer response, role-play scenario learning, internet research			工 夫 そ の 他 の	computer-based research and/or interview of professionals											
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	TOEIC practice, (4 skills learning), listening																		
	事後 学修	Extensive reading, using TOEIC reference materials to study outside of class, presentation preparation and interview practice, resume preparation.																		
教科書	International Express Pre-intermediate (Oxford) Students must bring a dictionary to class. Longman's Advanced Learner's Dictionary is recommended.																			
参考書	Get that Job (BBC): http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/getthatjob/ Talking Business (BBC): http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/talkingbusiness/ Students should have the Oxford Business English Dictionary.																			
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10								
	Attendance/participation	10%																		
	Midterm exam	25%																		
	Moodle homework	40%																		
	Final exam	25%																		
注意事項	-Students who are absent for more than 5 classes will automatically receive an F -This is a hybrid/online course (a portion of the classes will be held online via Zoom)																			
備考	A final project may be held in place of the final exam. This decision will be made on the first day of class. In such a case, the final project will have the same weight as the final exam. ※ビジネス英語Aの単位取得者は履修できません。																			
リンク	URL																			

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A203	国際学生フォーラム(International Student Forum)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	2,3,4	経	前期	月5	氏名 小笠原 悟 木村 雄一 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp, ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7713, 7689						
授業の概要	<p>第11回国際学生フォーラム(ISF)がこの夏(8月28-30日)に、タイ・チェンマイ大学で開催されます。ISFはアジアとヨーロッパの6大学の学生による英語での研究発表会です。各大学の学生との意見交換や懇親会で交流を深めることで、グローバルな視点で私たちが直面している課題について考えるいい機会となります。</p> <p>今回の研究テーマはESG(環境、社会、ガバナンス)です。ESGは、経済と社会を発展させながら、同時に環境と社会を重視する原則、アイデアであり、それを推進することが重要とされています。参加者は、ESGそのものについてのアイデア、考えを理解し、ビジネス、政治、国際関係、経済発展、イノベーション、社会企業などに対するESGの意</p>											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	国外の学生と英語で議論するための基礎力を身につける。											
目標2	経済系のテーマについて、英語で報告することに慣れる。											
目標3	国外の学生と英語で必要最低限のコミュニケーションができる。											
目標4	国外の学生との交流を通じて、多様な価値観を学ぶ。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス (ISFの概要説明とESGを理解する) グループ作りとテーマの検討 報告用論文の作成 報告用論文の作成 報告用論文第一稿提出 中間報告 報告用論文修正 報告用論文と概要(英文)の完成 提出用論文作成 提出用論文作成 提出用論文英訳 提出用論文英訳 発表用スライド作成 発表用スライド完成 まとめ(予行練習) 											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		・英語でプレゼンテーションをする動画サイトを閲覧することで、望ましい報告方法などが理解できる(必要に応じて紹介する)。			工夫 その他						
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	論文執筆や発表準備のための時間外活動が必要です。(40h)										
	事後 学修	旅費の一部は久保奨学金から拠出されますので、帰国後に成果報告書を提出します。(5h)										
教科書	なし											
参考書	設定した研究内容に応じて、必要な参考文献リストを準備します。グループでの協議や、各自で考えてリストを作成します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点(出席・議論への参加・発表準備・フォーラム当日の発表・フォーラム当日の議論)	100%										
注意事項	移動日を含めると全日程は8月27日から8月31日あるいは9月1日までになる予定です。また、前期の授業は7月24日までですが、渡航前に打ち合わせのためミーティングがあります。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) IBPプレゼンテーションセミナー(Presentation Seminar for IBP)					区分・【新主題】/(分野) 学部共通科目 学部共通科目		授業形式 対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択必修	2・4	3	経済	後期	月5,月6	氏名 市原 宏一、安田 俊介、加納 拓和、柴田 茂紀 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719													
授業の概要	1年間の協定校での留学による学習成果をもとにして、国際公務員、外国企業勤務、海外ボランティアなど国際社会での活躍を志望する人材アドミッションポリシーとして「国際化、情報化などに対応できる能力」をさらに一層深化させることを目的とします。これにより、国際的に活躍できる企業人・公務員の育成を進めるものです。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 留学によって修得したコミュニケーション能力の伸長																			
目標2 留学を通じて広めた社会経済文化に関する知見を踏まえ、演習や卒業論文の基礎として整理します。																			
目標3 論文作成技法、プレゼンテーション能力の伸長																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 ガイダンス																			
2 第1班テーマ報告																			
3 第2班テーマ報告																			
4 第3班テーマ報告																			
5 第4班テーマ報告																			
6 テーマについての相互評価グループワーク																			
7 第1班中間報告																			
8 第2班中間報告																			
9 第3班中間報告																			
10 第4班中間報告																			
11 成果報告についての相互評価グループワーク																			
12 第1班最終報告																			
13 第2班最終報告																			
14 第3班最終報告																			
15 第4班最終報告																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	・中間発表、留学に際して、ないしは留学を契機に学修した内容を個々に整理したうえで、複数回にわたり発表し、教室全体で協働学習します					工夫	その											
	B:意見の表現・交換							他											
	C:応用志向	・最終発表として、公開成果報告として、これら体験活動について、授																	
	D:知識の活用・創造																		
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各回の報告に向けて発表原稿・スライドを作成し、作成したスライドファイルを中間報告の事前に送付すること																	
	事後学修	授業に際して指摘を受けた部分について発表原稿・スライドを修正しておくこと																	
教科書	授業を通じて紹介する。																		
参考書	授業を通じて紹介する。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	テーマ及び中間報告	40%																	
	最終成果報告プレゼンテーション	60%																	
注意事項	IBPによって交流協定校への留学を行った学生が対象です。IBP教育プログラム修了要件です。(留学期間により、単位数が変わります。)																		
備考	IBPコース1年生は、事前準備として報告会への参加が義務づけられます。																		
リンク	URL																		

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
K023A203	インターンシップ(Internship)					学部共通科目 学部共通科目	対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択必修	2	3,4	経	前期	他	氏名 インターンシップ実施委員会 E-mail ejob@oita-u.ac.jp 内線 7659												
授業の概要	インターンシップでは、企業や地方公共団体等における就業体験を通して、高い職業意識と職業選択に必要な能力を養うとともに、学習意欲の向上を図り、学問研究への問題意識を醸成することを目的としています。この目的を達成するために、事前研修や事後報告会と合わせて専門教育の一環として単位を認定するものです。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	就業体験を通して、職業意識や職業選択に必要な能力を養うことができる																	
目標2	学習意欲の向上を図り、学問研究への問題意識を醸成する																	
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
ラック ニテン グ	A:知識の定着・確認																	工 夫 そ の 他 の
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前研修会への参加(7月開催予定)就職支援室による就職ガイダンスの受講(15h)																
	事後学修	事後報告会への参加(10月開催予定)就職支援室による就職ガイダンスの受講(15h)																
教科書	教科書は指定しません。																	
参考書																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	実習日報	20%																
	就業状況に関する報告書	20%																
	企業等による評価表	20%																
	事前研修	20%																
	事後報告会	20%																
	評価方法の各項目を総合的に判断してインターンシップ実施委員会で判断します。																	
注意事項	認定単位数は「5日以上10日未満の実習=1単位」「10日以上の実習=2単位」を基準としてインターンシップ実施委員会で判断します。																	
備考	事前研修と事後報告会の日程や内容は「就職の手引」や就職支援室で確認して下さい。履修登録の要否や登録方法など、本科目に関する、より詳しい内容を知りたいときは就職支援室へ問い合わせてください。																	
リンク	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	人事担当者、営業担当者、企画担当者、開発担当者
実務経験を いかした教 育内容	企業等でのインターンシップを通じて、就業意識を高めるとともに適切な自己認識や社会人として必要なマナー、責任感を習得する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K022A204	会社研究(Business Study)					学部共通科目 学部共通科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択必修	2	2,3,4	経	前期	水3	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698									
授業の概要	企業には様々な事業領域があり、また、行政のサービスも多様です。学生の皆さんには、これが十分に理解されていないことも多いと思われます。このような企業や行政の実際についての知識を得ることは、経済学部学生として他の授業内容についての一層の理解に役立つものと考えます。そして、この授業で得た知識を就職の際に生かして職業選択にも役立ててもらいたいと考えています。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	企業などの実社会の現状と課題を説明することができる														
目標2															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	交通														
2	銀行														
3	旅行														
4	通信														
5	食品														
6	輸入														
7	製造														
8	百貨店														
9	商社														
10	I T														
11	国家公務員														
12	地方公務員														
13	物流														
14	保険														
15	まとめ														
ラ ッ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。					工 夫 そ の 他 の								
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	講義予定の業種、企業については、図書館・ネットを使い事前に概要を調べておくこと(15h)。													
	事後 学修	講義内容を基に業界や行政の研究を進める(15h)。													
教科書	各講師が必要に応じて指定します。														
参考書	各講師が必要に応じて指定します。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	毎回の講義時のレポート	60%													
	期末試験	40%													
欠席(レポート未提出)が5回以上の場合は単位認定は行いません。															
注意事項	各回の内容は講師の都合により変更することがあります。														
備考	講師は各界の第一線で活躍されている本学部の同窓生の皆様等です。経済学部同窓会「四極会(しはすかい)」寄附講義として、その支援、協力により開講します。企業や行政における具体的な仕事内容、将来の方向、仕事の面白味、その他体験談などのほか、企業など各界で望まれる人物像についてお話し頂きます。														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A205	地域と経済(Local Areas and Their Economics)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	2,3,4	経	後期	水3	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	県内外の行政、産業界等において中心的立場を担う、あるいは担ってきた方々が現実の地域経済のなかで、見、聞き、行動して得た「地域と経済」への考え方を理解してもらいます。これらを通じて、現実の地域経済が抱える課題についての理解を深め、学問体系としての地域経済の理論の補強を目指します。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	地域における経済社会の実状と課題を説明することができる											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	食品製造											
3	食品関連											
4	観光レジャー											
5	事務機器											
6	IT											
7	会計											
8	サービス											
9	銀行											
10	金融											
11	公的金融											
12	自動車											
13	製紙											
14	マスコミ											
15	まとめ(授業評価アンケート・評価の方法の通知など)											
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。					工夫 その他	本講義では地域経済に関する幅広い分野の話聞けるよう社会人講師による講義を行います。講師は地域経済の第一線で活躍されている経営者・リーダーの皆様です。				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	講義予定の業種・企業等については、事前に図書館・ネットを使い概要を調べておくこと(15h)。										
	事後	講義内容を基に業界や行政、地域経済についての研究を進める(15h)。										
教科書	テキストは使用しません。											
参考書	各講師が必要に応じて指示します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	講義におけるレポート	60%										
	期末試験	40%										
	欠席(レポート未提出)が5回以上の場合は単位認定は行いません。											
注意事項	講義中に質問時間を取ります。学外から貴重な時間を割いて来られる講師の方々に報いるような、学習意欲の高い受講生を求めます。											
備考	大分銀行寄附講義として、その支援、協力により開講します。講師が所属する組織の地域経済との関係及びその歴史、大分県の地域経済の変化と課題及びその将来像について、地域経済を支える人材と資源・技術、情報の実態を踏まえたお話を頂きます。また、地域経済社会で望まれる人物像についてご教示頂きます。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A206	資本市場の役割と証券投資(Role of the Capital Markets and the Securities Investment)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1,2,3,4	経	後期	水4	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か、激変する日本の資本市場の全容とリスク&リターンの考え方、株式や債券・投資信託など証券投資に必要な基本的知識をわかりやすく、実務の観点から解説します。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	社会人になってからも実践的に役立つ金融知識の習得											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	経済情報の捉え方											
3	金融市場の役割とその変化											
4	証券投資のリスク・リターン											
5	ポートフォリオ・マネジメント											
6	債券市場の役割と投資の基礎知識											
7	株式市場の役割と投資の基礎知識											
8	投資信託の役割とその仕組み											
9	日本の株式市場の歴史											
10	これからの日本と資本市場の果たす役割											
11	資本市場における投資家心理											
12	資産運用とライフ・プランニング											
13	産業展望と投資の考え方											
14	世界の金融資本市場展望											
15	総括											
ラ イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	チーム単位の投資活動に関するワークショップを行い、グループ報告を してもらいます。				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	講義内容に関する予習学習(15時間)										
	事後 学修	講義で出された課題の学習(15時間)										
教科書	資料は毎回、配付予定です。											
参考書	講義で紹介します。											
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	授業回ごとのレポート	60%										
	期末テスト	40%										
注意事項	毎回出席をとります。											
備考	大分銀行大分支店(野村証券)の寄附講義として、同社の支援、協力により開講します。 講師は、野村証券株式会社をはじめとする野村グループの管理職や専門職です。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
		CSV経営実践論(Company and Business)					学部共通科目 学部共通科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2, 3, 4	経済学部	後学期	水4,水5	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698											
授業の概要	社会課題を解決するために、CSV経営(Creating Shared Value、共有価値の創造)を実践してきた芙蓉リースグループのリアルな活動から、世界規模で深刻化する社会課題への理解を深めます。またビジネスによる具体的な解決の取り組みについて学びます。授業では講義による知識習得、問題提起と、グループワークによるアクティブラーニングを中心に進めます。講義は芙蓉リースグループ社員の他、大分に関係する企業からもスピーカーを招聘します。CSV経営の実践を学ぶ過程で、就職を控えた学生が社会人として求められるリーダーシップやコミュニケーション力などのスキルを高めることにも配慮します。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	1. 現代社会が直面する重大な社会課題について理解し、説明できる。																
目標2	2. 社会課題を解決する取り組みとしてのCSVに関する基本的な知識や具体的な事例を理解し、説明できる。																
目標3	3. CSV経営を実践するためのスキルやリーダーシップを理解し、主体的に行動できる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	オリエンテーション、基調講義																
2	(テーマ1) 気候変動問題が企業経営に与える影響																
3	テーマに基づくグループワーク																
4	(テーマ2) 再生可能エネルギーと地域経済																
5	テーマに基づくグループワーク																
6	(テーマ3) 地域経済と「モビリティイノベーション」																
7	テーマに基づくグループワーク																
8	中間まとめ、ふりかえり																
9	CSVにおけるリーダーシップとビジネススキル																
10	(テーマ4) 地域生活を支える「医療・介護」																
11	テーマに基づくグループワーク																
12	(テーマ5) 地域における「循環型経済」の進展																
13	テーマに基づくグループワーク																
14	特別講義																
15	学生による発表会、講評																
ラ ア イ ニ テ ィ イ グ レ ー プ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	グループワークや受講者によるプレゼンを取り入れたり、成果物としてのレポートや授業毎にコメントシートの提出を求めます。提出物を活用して質問や感想に答えたり情報を共有することで、他の学生から学ぶ機会を設け、知識の深化を進めます。					工 夫 そ の 他 の	毎回の授業でコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答え、他の学生から学ぶ機会を設けます。									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	指定した資料の読了または課題の作成(事前30時間)。 講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など(事後15時間)。															
教科書	教科書は指定しません。 授業はスライドを使って進めます。																
参考書	授業内でつど指定、紹介します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	平常点	50%															
	レポート	50%															
平常点は、授業内で指示する課題や演習、グループワークへの参加姿勢や、発言・発表の内容などを評価する。																	
注意事項	授業中に意見を求めることがあります。 予習・復習を励行し、積極的な授業参加を求めます。																
備考	各テーマとそれに続くグループワークは基本連続した2コマで実施します(例えば、同じ日の3限と4限)。 授業の進行状況によって、講義内容の順番が変更となる場合があります。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	芙蓉総合リース株式会社の社員
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスのリアルな動向に金融サービスの観点を加えて、CSV経営の実践を多面的に解説します。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 法律の基礎と実務(Legal Basis and Practice)				区分・【新主題】/(分野) 学部共通科目	授業形式 対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1,2	経	後期	水5	氏名 利光 宏司 E-mail bundai2024@taketa10432.com 内線												
授業の概要	大分県弁護士会の法教育委員会に所属し、第一線で活動する複数の弁護士がリレー形式で講義を行う。社会人への第一歩を踏み出した受講生のために、社会人として最低限知っておくべき法知識を身につけてもらうことを目的とするが、アカデミックな法学の授業にとどまらず、裁判例や担当弁護士が日々取り組む実務の体験談を交えることで、ダイナミックな法律実務の世界を体感し、弁護士を身近な存在として認識してもらいたい。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	法学の世界を体感する。																	
目標2	代表的な法分野の基礎について理解する。																	
目標3	法曹の仕事を知る。																	
目標4	双方向の講義を通じて論路的な思考力・表現力を身につける。																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	ガイダンス																	
2	債権法の基礎 (1)																	
3	債権法の基礎 (2)																	
4	不動産と法																	
5	会社と法 (1)																	
6	会社と法 (2)																	
7	労働者と法																	
8	民事紛争の解決法																	
9	家族法の基礎 (1)																	
10	家族法の基礎 (2)																	
11	刑事法の基礎 (1)																	
12	刑事法の基礎 (2)																	
13	インターネットと法																	
14	主権者と法																	
15	講義のまとめ																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	受講者の積極的な発言を求める。					工夫	その他の										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	新聞やテレビのニュースによく触れておくこと。(20h)																
	事後	講義で触れた重要箇所を適宜復習すること。(25h)																
教科書	特に指定しない。																	
参考書	特に指定しない。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	平常点	50%																
	期末レポート	50%																
注意事項	最新の小型六法(「ポケット六法」(有斐閣)、「デイリー六法」(三省堂))を用いて学習に取り組むことが望ましい。2年生以上は、学部共通科目となります。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A207	働くということと労働組合(Work and Trade Union)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	2,3,4	経	前期	水4	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	労働・仕事とは「働くということ」を通じて社会に参加することです。よりよい社会やよりよい仕事環境にしていくためには企業だけでなく、働いている人自らが労働環境をよりよくする取り組みに参加する必要があります。職場では賃金・労働時間をはじめとする仕事のルールがどのように決まり、それがいかに社会と関係しているのか、労働組合の第一線で活躍されている方にお話ししてもらい、今後の職業選択において多様な視点をもってもらうことを目指しています。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	働く上での具体的な諸問題を理解し、解決に向けて考える姿勢とそのための知識を得ることができる。											
目標2	労働組合の役割、企業経営の意義を自ら考える能力を得ることができる。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス：働くということと労働組合											
2	課題提起：労働組合の役割											
3	課題提起：労働組合と労働行政											
4	課題提起：労働組合と経営者											
5	労働組合と政策：労働組合が目指す政策・制度											
6	労働組合と政策：若年雇用問題の解決を探る											
7	労働組合と政策：男女平等参画社会を目指して											
8	労働組合と政策：非正規労働問題への対応											
9	政治と労働組合：現状と課題											
10	政治と労働組合：ワークショップ											
11	政治と労働組合：グループ報告											
12	社会を変える運動：現状と課題											
13	社会を変える運動：ワークショップ											
14	社会を変える運動：グループ報告											
15	総括											
ラ イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義とワークショップを組み合わせで行います。				工 夫 そ の 他 の	グループ発表を行います。					
時間外 学習 の内容と 時間 の目安	準備 学修	事前提示レジュメ・資料の理解(22.5時間:1回1.5時間)。										
	事後 学修	レポートの作成および振り返り(22.5時間:1回1.5時間)。										
教科書	特にありません。講義ごとにプリントを配布します。											
参考書	必要に応じて、講義中にお知らせします。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	授業レポート	50%										
	グループワーク	50%										
		欠席が5回以上の場合は単位認定を行いません。										
注意事項	・労働組合の第一線で活躍している方を講師としてお招きします。講師・受講生ともに快適な環境作りにご協力お願いします(私語は講師・受講生に対しての迷惑行為ですので、謹んでください)。											
備考	・労働組合・連合(日本労働組合総連合)大分の寄附講義として、その支援、協力により開講します。 ・後半戦はグループ報告を行います。欠席すると単位が出せなくなりますので、毎回の参加ができる方の受講をお勧めします。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K022A208	租税の基礎と税理士の役割(Basis of Tax and Role of Certified Public Tax Accountant)					学部共通科目 学部共通科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	2,3,4	経済	後期	木4	氏名 教務委員長 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	本講義は、南九州税理士会の寄付により開講します。本学部や本学経済学研究科出身の税理士を中心とした講師により、わが国の租税制度と税理士の役割について、実務に基づいた内容の講義を進めます。日本の租税制度を理解してもらいつつ、税理士という仕事の役割や今後の課題についての講義を展開します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	日本の租税の基礎を修得し、その役割を理解することができる。											
目標2	税務に携わる税理士の役割について理解し、今後の税務における課題を考えることができる。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション「現代社会における税理士の使命」											
2	租税の歴史と租税のもつ役割											
3	法人税概論											
4	税理士制度と税理士の役割											
5	所得税概論											
6	国税業務について											
7	資産税概論(相続・贈与・資産税)											
8	消費税概論											
9	税理士の仕事(租税の専門家)											
10	税理士の仕事(企業のアドバイザー)											
11	租税争訟制度について											
12	税理士と社会貢献(公益的業務)											
13	中小企業会計基準とは											
14	経営革新と企業再生について											
15	まとめ											
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。				工夫 その 他の						
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修	各回の講義の前に講義対象となる日本の租税制度および租税業務について調べておいてください(15h)。										
	事後 学修	講義内容の振り返り(15h)。										
教科書	特にありません。講義ごとにプリントを配布します。											
参考書	必要に応じて、講義中にお知らせします。											
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	講義におけるレポート	60%										
	期末試験	40%										
	提出回数が開講数の3分の2以下の場合には単位認定は行いません。											
注意事項	税務の第一線で活躍されている税理士の方々を講師としてお招きします。講義に講師・受講生が集中できるよう快適な環境作りを心がけてください(私語は講師、他の受講生に対しての迷惑行為です)。											
備考	・南九州税理士会の寄附講義として、その支援、協力により開講します。 ・税理士希望の学部生のみならず、日本の税制に関心を持ち、経済社会における租税の基礎と役割を深く学びたいと考える学生の受講をお勧めします。											
リンク	URL											